



令和 7 年 8 月 25 日
(午前)・午後 8 時 30 分 受領

議長	事務局長	係
		

No. 1

令和 7 年 8 月 25 日

愛南町議会議長 吉田 茂生 殿

愛南町議会議員 山本 美佐

一 般 質 問 通 告 書

次のとおり通告します。

質 問 の 要 旨	答弁を求める者
「愛南町の若者の住宅事情について」 愛南町では、出生数減少への対策として、子育て支援が充実しており、近隣市町村と比べてもトップレベルの手厚さです。 しかし、結婚を考える独身の若者への支援は少なく、町に住み続けたいと思える魅力が不足していると感じられます。 結婚や子育ての第一歩として、若者が愛南町で出会い、結婚し、暮らす環境を整えることが重要です。特に、住居は生活の基盤であり、満足度を高める優先事項です。 ところが、愛南町の家賃は松山市と同等と言われるほど高く、若者にとって住みにくい状況です。「愛南町で働いているが、住む場所がなく、近隣に住むしかない。通勤費もかかり、家賃も高いし、空き物件も少ない」との声が聞かれます。 公営住宅はというと、現在 70 戸が空き、うち 13 戸が改修済みですが、単身者は 60 歳以上でないと入居できない条件があります。このルールは愛南町営住宅管理条例に基づくものですが、時代に合ったニーズにこたえる柔軟な対応が求められているのではないのでしょうか。 愛南町の総合計画や人口ビジョンでは、人口減少や転出	町長

超過を課題とし、転入促進や出生率向上を目指しています。

しかし、住居が整わなければ、若者の転出を防ぐのはむつかしいのが現状です。

若者に「愛南町に住みたい」と思ってもらうためには、住宅事情の改善が欠かせません。他市町村にない魅力を創出し、若者を引き付ける一歩を踏み出すことが、愛南町の未来を築く大きな力になると考えます。

そこで、次の質問をさせていただきます。

1. 公営住宅の入居条件は、本当に変えられないのでしょうか？
2. 公営住宅の空き状況を今後どのように活用していく予定ですか？
3. 若者の「住む場所がない」との声に対し、新たな住宅政策の計画はありますか？

愛南町が若者にとって住みやすい町となるよう、期待を込めてお尋ねいたします。